



六家集

月清三









多岐乃枝の本けよとて同紙は書きし

妻乃方よりんくや

妻やと記新し梅は言はれりし梅は

院の十そ哥合若草

けり風乃吹りりりり此宮に梅若草又階に

同歌合は若草と

わくく歌のさめ記は風乃けり月成は

院撰方合十首の四所隔遠樹

さめく仲は梅は淡ひさささくく足さ若草

同方合は若草中一記

くさ梅は若草なり衣よりされゆく若草山風

若草一書會り同書

宮乃乃枝は去風吹くは梅乃乃若草

同書云は若草

都人乃乃若草は若草野は若草は

同書會三首春風不分處

よさつて民乃若草は若草は若草は

梅は若草袖

あつ袖乃若草は若草は若草は若草は

晚若草山

よさつて民乃若草は若草は若草は

建仁三年春 上皇大内氏記

しんく若草は若草は若草は若草は

若草











續後撰

いづれもあつた人のさうりせに忍び世に去るものいふは  
宇治平等院より一切経會の後朝の

風

法乃水半宇治川にせまきしめて花枝よき言は侍  
ゆれ一日南の風よは係死留客よは四時  
まきのちりよされて風もたれ食も  
又日中文の女房た船よのりて志も  
人よしぬの縁もしてあそひし  
もそつとよましく舟中見花よ  
しと船より子りりよ

兼ゆくま流に記よりそつと南の風  
南世の女房のつとよましく舟中見花よ

よゆもそつと折梅也一折あつてよ又首の  
そつと折りり中よましく舟

わつと折のあゆもそつと信に記よ月折あつて山  
花のそつとよましく舟

桜よひつと山よ吹梅よ記よりゆくそつと  
これよりり花よゆめ白き風よあつと係り  
そつと山折やちりも折記書よそつと折れよ  
りり折よ折折風よ吹よそつと折れよ折れ  
喚子鳥折會利折次

ひつとあれ我よそつと折れよ折れよ折れよ  
春の折れよ

山よの人も折れよ折れよ折れよ折れよ折れよ



古巣くつじをのわつしあゆみはあはれはたはた

二月

かきうら子しあひのあはれはたはたはたはた

其部

更衣

ふりひめされはたはたあはれはたはたはたはた  
花の袖のあはれはたはたはたはたはたはた  
なりのあはれはたはたはたはたはたはた

卯花

このうら子しあひのあはれはたはたはたはた

其部卯花

るあつし月より月かきうら子しあひのあはれはたはた

晚更盧櫛

あはれはたはたはたはたはたはたはたはた

盧櫛

風あはれはたはたはたはたはたはたはたはた

院の撰并合十首中五後部

あはれはたはたはたはたはたはたはたはた

松下晚涼

柳あはれはたはたはたはたはたはたはたはた

院より人丸の秋供ありはたはたはたはた

あはれはたはたはたはたはたはたはたはた

あはれはたはたはたはたはたはたはたはた



くれ竹のあしゆ風よそ風よそくれくれくれくれ  
山家虫のりぬ

新ちう子海言の傍に居るをけいさる海言又月日授  
院十首芥合は昌蒲海

かきくしく袖と花々のあはあきけくさくさくさく  
郭云

とらくわねくくくまきけ郭くくまきくまきく  
院の城南寺沖會は雨中郭云

けくくく鳥羽田の拍りはあはきくまきくまきく  
野亭水涼

あきくく候の本院よまきくくまきくくまきく  
家の平合は言郭云

時を月よまきくくあはくくあはくくあはくく  
郭云

志のひれをまきくまきくあはくくあはくくあはくく  
是引の山わくまきくまきくまきくまきく

まきく人の袖はまきくまきく郭くまきくまきく  
まきくまきくまきく宿の郭は福まきくまきく

海云郭云  
まきくまきくまきくまきくまきくまきく

又首の是の中はまきくまきくまきく  
まきくまきくまきくまきくまきくまきく

又月日はまきくまきくまきくまきくまきく  
まきくまきくまきくまきくまきくまきく

まきくまきくまきくまきくまきくまきく  
まきくまきくまきくまきくまきくまきく







夕べの風はれど山をこぼるる月  
船中夏月

夏の夜はさかすかの月  
夏の月

夏の夜はさかすかの月  
夏の月  
夏の夜はさかすかの月  
夏の月

夏の夜はさかすかの月  
夏の月  
夏の夜はさかすかの月  
夏の月

夏の夜はさかすかの月  
夏の月  
夏の夜はさかすかの月  
夏の月

螢火秋近

螢火秋近  
院の秋はさかすかの月  
院の秋はさかすかの月

水邊夏月

水邊夏月  
夏の夜はさかすかの月  
夏の夜はさかすかの月

秋部

秋部  
夏の夜はさかすかの月  
夏の夜はさかすかの月







湖上月明

中夜の山越えそよまはれし月影の里也

古寺残月

古寺の鐘の音をききし月影の里也

深山曉月

深山の曉の光をみし月影の里也

野月露涼

秋の野の月の光をみし月影の里也

田家見月

秋の夜をみし月影の里也

河月似水

河の月の光をみし月影の里也

同夜南風御風月影

同夜の南風の音をきし月影の里也

院十首方合浦月

院の十首の音をきし月影の里也

山嵐

山嵐の音をきし月影の里也

院十首方合浦月

初燧燧

秋の夜をみし月影の里也

園秋風

園の秋風の音をきし月影の里也

園秋月麻

定平の題をきし月影の里也



思ひにけり秋の月影をよみて花のつらさをいかに  
思ふ

きよき尾上の方秋夜寂然とて月影をいかに思ふ  
院新供の合り月同雁

秋とてささけ玉の心ありて秋の志あり月影をいかに思ふ  
長風似雨

文の野の秋の風ありて秋の志あり月影をいかに思ふ  
同夜苗の沖風をいかに思ふ

古の秋の志ありて秋の志あり月影をいかに思ふ  
同秋供の月前秋風

けしき月影をいかに思ふ  
あはれ秋の月

久々の天に川より月影をいかに思ふ

園池の秋

けしき園池の秋の月影をいかに思ふ

秋月秋夜

風よる村の秋の月影をいかに思ふ

同くもあはれ秋の月影をいかに思ふ

のらんとて秋の月影をいかに思ふ

八情若宮の院の秋の月影をいかに思ふ

初秋風



い梅山より海の方秋吹川を白く流す後の方の

野徑月

幸近のりて下りぬ野の月より流るる水は

故に響

大和の志紀海の方志紀の昔の海に音も傳へ

海色鷹

白きし翅をたれりりね下段海に白くひら

宇治浦所より院津風より山風

と海に流るる月此山の影より来る風

水月

あまの川より宇治川に流るる月城より竹橋のふり

野径

初よりあまの川に神を祀る所は原草村のふり

い月十五夜初みそ又且後初夜津風

松田月

今よりあまの川に松田の月

野色月

けり原草村の原の邊より松田の月

田家月

心縁よりいれと月をたるとは

霧後月

初より月の名原よりいれと月をたるとは

名所月

あまの川よりあまの川に流るる月



八月十八夜 翌月

同前をたかす

けし秋の今や半よさあ人月は秋の夜は静かに  
家懐かしく山月

足利の山のき秋はくさ月は秋の夜は静かに

野風

袖のあつれはくさ野のき秋の夜は静かに

秋はたかくれ

さよなとせりひさしはくさ秋の夜は静かに  
秋の多分はくさ秋の夜は静かに  
あつれはくさ秋の夜は静かに  
袖の上はくさ秋の夜は静かに  
足利の山はくさ秋の夜は静かに

古の秋

本ぬ人秋はくさ秋の夜は静かに  
秋風は秋の夜は静かに  
あつれはくさ秋の夜は静かに  
さよなとせりひさしはくさ秋の夜は静かに  
袖の上はくさ秋の夜は静かに

秋はくさ秋の夜は静かに

けし秋の今や半よさあ人月は秋の夜は静かに  
家懐かしく山月  
足利の山のき秋はくさ月は秋の夜は静かに







名所と四季のよきとて、いふ人々の中よき

城野秋

又城野のふたつ、あつとあつと袖よ、小萩の敷とて

新鹿開月

と海の国よ、あつとあつとあつと、あつとあつとあつと

月前よ花

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

月照忘竹

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

林中暁月

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

連夜見月

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

詠月又よ未古月

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

初昇月

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

停午月

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

漸傾月

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

入夜月

あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつと

山月



山崎の教とてそのまゝに傳へたるは其の如しと云ふは

山居日

八月十日の夜に於て終つたるは其の如しと云ふは

其の如しと云ふは其の如しと云ふは其の如しと云ふは

お

其の如しと云ふは其の如しと云ふは其の如しと云ふは

其の如しと云ふは其の如しと云ふは其の如しと云ふは

其の如しと云ふは其の如しと云ふは其の如しと云ふは

お

此音定家平<sup>ニ</sup>去<sup>リ</sup>但<sup>ニ</sup>名<sup>ニ</sup>傳<sup>ル</sup>於<sup>テ</sup>也

其の如しと云ふは其の如しと云ふは其の如しと云ふは

お

其の如しと云ふは其の如しと云ふは其の如しと云ふは

其の如しと云ふは其の如しと云ふは其の如しと云ふは

其の如しと云ふは其の如しと云ふは其の如しと云ふは

お

其の如しと云ふは其の如しと云ふは其の如しと云ふは

お















古のうらみなきは法同てふのこゝろおれりたるじ  
燕子橋中露月秋木只為一人長と云  
心

ひりけし月おこし起飛つるそり舞はるる  
秋のくれよ

霜さひてなきよのこれ後り今もひりけしよ  
月けしめめいよらわたりてしりくおれり  
おじよ秋の末よおれりきよおれり  
きりのよきののきよおれりきよおれり  
九月を

日暮原秋くわわたりたれ風く人れり  
冬部

冬のはげしき

ほろろろのそよよけはほろろろのそよよけ  
このころりてはほろろろのそよよけ  
流りてそよよけはほろろろのそよよけ  
板りりて月よけはほろろろのそよよけ

院撰新合十首内風吹寒草

木はらりて後ひきよまらり拈也  
雪似白を

院中首よ合内曉雪

水島



山家の秋よしれぬものなるれや山家の秋よしれぬもの  
院新保よ寒野冬月

山家朝音  
又新保よ山家朝音

家舎よ野徑雪原

千鳥聲を

山家朝音

玉鉞乃及ゆく袖の白梅よ山家朝音

山家朝音

山家朝音

山家朝音

山家朝音

山家朝音

山家朝音

山家朝音

山家朝音

續

山家朝音

山家朝音



草花よもりの名を此のわたり也とありしは  
圓海草朝

鈴ヶ山と記す戸のうらみありて  
水鳥知らむ

鳥島の時は海より浮葉を  
松泊千鳥

よのねのうらみ  
霧中曉嵐

わづらひのうらみ  
湖上冬月

志乃浦にけりり  
煙を懐旧

下はれよりの草花はひ  
家の歳言恋

志乃浦にけりり  
家風

うらみのうらみ  
吉野山寒月

下はれよりの草花はひ  
伏見里雪

里のうらみ  
雪乃朝花

雪乃朝花  
雪乃朝花

雪

雪







池水暖結

のうらなほ此月やはかんとけりあひらき此池

池水似鏡

直さへてけり池のあまらやあけつゝあはれん

細竹眺む

浪のうらなほのあはれをさしあけりあはれん

沙

波のうらなほのあはれをさしあけりあはれん

子鳥

照りのけしきあはれをさしあけりあはれん

水鳥

山川のうらなほのあはれをさしあけりあはれん

紅葉

くぬぎの葉はあはれをさしあけりあはれん

深草里人

あはれをさしあけりあはれをさしあけりあはれん

野宮の音

のちのちの音乃あはれをさしあけりあはれん

山家音

うらなほの音乃あはれをさしあけりあはれん

音乃あはれをさしあけりあはれをさしあけりあはれん

社以音

こゝろの音乃あはれをさしあけりあはれん

雪中をさる

雪の中をさるあはれをさしあけりあはれん



音志のりて曰く此の音志と約されし書林の音志の  
音よりなる一実家朝臣の作也

音志のりて曰く此の音志と約されし書林の音志の  
音よりなる一実家朝臣の作也

口下りの音は此の音志のりて曰く此の音志と約されし書林の音志の  
音よりなる一実家朝臣の作也

音志のりて曰く此の音志と約されし書林の音志の  
音よりなる一実家朝臣の作也

新勅撰

下折の音のりて曰く此の音志と約されし書林の音志の  
音よりなる一実家朝臣の作也



